

“The Giving Tree” (Shel Silverstein)を用いたReading授業

お茶の水女子大学附属中学校 英語科教諭 林多恵子

1. はじめに

英文を読む力について、各学校や地域の入試問題で扱われる語数は長いもので1300～1500語にも及ぶため、教科書に加えて日頃からまとまった英文を読むことに慣れさせていく必要がある。しかしながら、英語のReading教材を探してみると、日本の中学生の英語力と認知発達の段階にふさわしく、その内容に関心を持ちながら一人で読み進められる本はそう多くはない。ここでは、authenticなものでありつつも、中学生の生徒が興味を持ちながら生徒が無理なく取り組めるReadingの題材を扱った授業を提案する。

2. 教材について

“The Giving Tree” Shel Silverstein

この作品は、児童向けに書かれたものであるが、そのメッセージ性の強さ、内容の深さから世代を超えて多くの人が心を動かされている。各国の言語で翻訳もされており、日本語版では、『大きな木』として出版されている。

今回、この作品を中学2年生から3年生向けの授業で扱う。児童書であるため、多くの文が短文且つ既習の文法知識を使って読めるものであり、一文一文の意味を掴みやすい。語彙については、教科書では扱わない語や表現が出てくるため、読む前のプレアクティビティとしてその意味や使い方を確認しておきたい(ワークシート1)。

3. コンピテンシーの育成について

この教材を使用して授業を行うことで、以下2つのコンピテンシーの育成が期待できる。(10項目のお茶大コンピテンシーより抜粋)

(1) 他者理解力の育成

“The Giving Tree”は、木が少年に与える無償の愛を描いている作品である。木と少年のやりとりを通して、読み手に「幸せとは何か」という問いを残してくれる作品である。この作品を読み、少年や木をそれぞれ自分自身あるいは周囲の人に重ねることで、他者、とりわけ家族や身近な人が自分に与えてくれる愛情や優しさについて気が付く機会になる。

(2) 対人葛藤解決力の育成

対人葛藤解決力とは、他者との間で意見の対立や利害の衝突や葛藤が起きた際に、それを建設的に解決に導く能力を指す。これには、自分の要求を適切に伝える力、相手の意見を尊重し傾聴する力、妥協点を見出す力、協力して問題に取り組む力などが含まれる。

The Giving Treeでは、少年が木に対して一方的に要求をし、木はまたその要求を全て受け入れるが、木と少年の関係には健全な対人葛藤解決に必要な要素が欠けていることがわかる。この作品からは、良好な人間関係を構築するために対話をすることの大切さを学ぶことができる。

4. 指導の流れ (1時間 ※授業の挨拶、W-Up等は省略)

目標: 読むこと イ

日常的な話題について簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。

教材: “The Giving Tree” (本、電子書籍など)

スライド

ワークシート1・2(※ワークシート2は著作権保護のためここでは掲載しない。)

時間と展開 Layout	主な学習活動 Learning Activity	教材・教具 Teaching Material
5min. 導入	●“The Giving Tree”の本の表紙を提示する。 ●Shel Silversteinについての紹介。	スライド
10min. Pre-Activity	●語彙と表現の確認 ・語彙は品詞についても確認できると良い。使い方の例については、本文に出てくる表現をそのまま用いると、Readingの際の気付きにつながる。 ・必ず発音、リピートを行いReadingの際に音を聞いて反応できるようにする。	ワークシート1 英和辞書 (英英辞書)
10min. Activity1	●Reading ・教師はStory Tellingを行う。Big Bookやスライドを使用すると良い。スライドの場合は、絵だけでなく必ずテキストを提示する。	スライド
10min. Main Activity2	●Retelling ・ワークシートを用いて、ペアでRetellingを行う。 ・クラス全体で内容の確認。	スライド ワークシート2
10min. Main Activity3	●“What is the best lesson you learned from the story?” ・質問について、自分の考えを書く。 We learned... It taught us about ... など書き出しを提示してあげると取り組みやすい。 (生徒の英語レベルに応じて、まずは日本語で書かせても良い。) ・書いた内容について、ペアやグループで共有する。	ワークシート1
5min. まとめ	●授業の振り返り ・どのような内容の話だったか。 ・感じたこと、新しく知ったこと、学んだことを書く(日本語で良い)。 ・学びをクラスで共有する。	ロイロノート (振り返り)

評価:

物語を読んで、その概要を捉えようとしている。★主体的に学習に取り組む態度
(振り返りの記述による評価)

5. 指導上配慮すべき事項

・Reading中心の授業ではあるものの、inputに偏らないよう、ペアワークなどのinteraction活動を積極的に取り入れる。

参考文献

Shel Silverstein(1964). *The Giving Tree*. U.S.A: HarperCollins.